建築士会全国大会 女性委員会セッション

1.概要

- **テーマ**：「思いっきりバージョン UP！ PART 3」
- **日時**：2025 年 9 月 19 日（金） 10:00〜11:50
- **会場**：グランキューブ大阪 10 階 1004 会議室
- **形式**：ワークショップ（7 グループ＋オンライン 1 グループ）
- **参加者**：建築士会会員ほか

本セッションは、従来の報告会形式を一新し、参加者が主体的に意見を交わすワークショップとして開催されました。テーマは「建築士会って、もっとこうなったらいいのに！」「こんな活動があったら、私も参加したいな」。8 つの視点に分かれて議論し、建築士会をより魅力的で参加しやすい組織にするためのアイデアを共有しました。

2．プログラム

1. 開会挨拶（石貫方子 委員長）
2. グループワーク
    - 自己紹介
    - シンキングタイム（意見を付箋に記入）
    - グループ内意見交換
    - まとめとキャッチフレーズ作成
3. 成果発表（各グループ 3 分）
4. 閉会挨拶（齊藤裕美 副委員長）

3．参加グループでの議論内容（建築士の認知度向上）

「建築士の認知度向上」尾ノ井参加

主な意見

- **情報発信の工夫**：新聞・NHK など公共性の高い媒体や SNS を活用し、広い世代に建築士の役割を伝える。
- **建築士＋α の活動紹介**：防災・まちづくり・**防災をテーマにしたワークショップ**：避難所での判断を題材に「考える機会」を提供し、建築士が防さんかく災対応に貢献できることを伝える。

- **会員拡大策**：住宅フェアや子ども向けイベントを通じて社会との接点を広げ、参加しやすい建築士会をつくる。
- **子どもへの省エネ教育**：自然の中で体感しながら学べる省エネ体験プログラムを実施する。

→ キャッチフレーズとして「伝わる建築士 ― 社会に広げる＋αの活動」を掲げました。

B:「学生」有賀参加

1. 現状の課題
   - 学生や若手の参加が少ない
   - 建築士会の敷居が高く、入りにくい印象
   - 建築の世界が広がりにくく、継続参加につながりにくい
   - 大学が少ない都道府県があり、各士会により格差がある
   - 財政面を考慮すると、学生会員の会費は無料で良いのか？
   - **愛知県の学生会員制度について**
     - 青年委員会の中に学生部会があり、学生がイベントを企画運営している。
     - 入会は無料、入会時に卒業予定を確認し、卒業時に準会員移行の確認を事務局が行っている。
     - 会員数初年度は 180 名→現在 81 名
     - 学生会員制度発足時、学校や大学の先生と協議した。
     - 連合会として学生会員制度の取り組みをしてほしい。

2.改善の方向性
   - 制度として
     - 会費の割引や参加しやすい制度の導入
     - 気軽に参加できる企画やイベントを充実
     - 財政面からは会費無料には問題がある
   - **世代を超えた交流の場づくり**
     - 有名な建築家の講演会(神奈川県建築士会 藤村壮介)
     - 若手とベテランがつながる交流会
     - 建築に興味を持ったタイミングで建築士会の活動を知れるようにしたい。(高校生の時建築士会を知った。資格取得後入会したが忙しく退会、5 年前に再入会した。)
3. 学生と建築士会の協調の為に

- 学生や若手が自然に集まり、成長できる環境
- 先輩から学びながらも自由に発言できる雰囲気
- 世代を超えて交流し、誰もが参加したいと思える魅力ある建築士会

４．全体発表で共有された意見

他グループの発表や全体ディスカッションでは、次のような意見が印象的でした。

- **世代別委員会の提案**：青年委員会があるなら「**老年委員会**」があってもよいのではないか。
- **働き盛り世代の課題**：子育てや介護、社会活動の両立が課題であり、子連れ参加 OK やイベント参加に助成金があれば家族の理解が得やすい。
- **女性委員会への誤解**：女性の会というより、向上心ある女性が集まった委員会であることを広く知ってもらいたい。
- **参加しやすさ**：飲み会よりもワークショップ形式の方が気軽に参加しやすい。

５．感想

今回のセッションは、参加者一人ひとりが主体的に考え、自由に意見を交わす場となり、建築士会の魅力を高めるための多くのヒントを得ることができました。特に「認知度向上」については、情報発信と社会との接点づくりが重要であることを再認識しました。

また、全体発表では、世代や立場ごとの課題を共有し合うことで、建築士会がより多様で開かれた組織となるための方向性が見えてきたと感じます。

最後は、参加者が持ち寄った各地のお菓子をいただきながら、和やかな雰囲気でセッションを終えることができました。今後は、このセッションで得られたアイデアを地域活動にも活かし、建築士の存在意義を社会に広げる取り組みに積極的に関わっていきたいと思います。